



第9号 平成19年1月1日発

発行元：医療法人 橘会 橘病院

(財)日本医療機能評価機構認定病院

編集：橘病院広報委員会

ホームページ：<http://www.tachibana-hospital.jp>

『年頭所感』

理事長 矢野 良英

新年明けましておめでとうございます。

謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年度を振り返りますと、職員の皆様は、ほとんど意識にないかもしれませんが、4月末でそれまでの個人病院の橘病院は閉院となりました。そして5月1日より新しく医療法人 橘会の橘病院が開設されました。まったく新しい病院として全てがZEROからの出発となりましたが、8ヶ月経過してほぼ順調な滑り出しとなりました。

医療界は、医療費の長期削減計画が実施されるなか、4月より療養病床数の削減を図るため、入院基本料のあからさまな減額が行われましたが、当院は6月より回復期リハビリ病棟への転換ができましたことは、実に幸いな事でした。

一般病棟は、8月より一般病棟入院基本料の7対1入院基本料をとり、更なる手厚い看護の出来る看護体制となりました

ので、今年は看護師さんの一人一人の看護の質の更なる向上を図り、患者様に今よりも少しでも多く満足してもらえるようにすることが大切ではないかと思います。

11月には、柏木先生に院長職をお願いすることにしました。

今後、私は理事長として、病院の運営・発展に寄与するよう努力をしたいと思います。

橘病院の今年の目標は、事務請求の電算化およびDPCへの手上げをすることは先ず必要かと考えます。更に昨年からの課題を引継ぎ、診療所の開院による外来診療部門の充実、通所リハビリ及びパワーリハビリ等による患者様への健康サービスの充実等図ること、電子カルテの導入の検討や人材の育成等を念頭にいれながら病院の運営をしていきたいと思っています。

婦長さん・主任さん

2階病棟 看護主任 大鼓 かおり

こんにちは。私は2階病棟の主任をさせていただいている『大鼓(タイコ) かおり』と言います。よく『大鼓』という苗字は珍しいと言われるし、読めない方も多いです。また、苗字を名前と間違われます。小学校の頃は名前をからかわれましたが、看護師をしていると、かわった苗字の方と出会うこともあり、最近では『大鼓』という苗字に抵抗を感じなくなっています。

現在、私は2階病棟と手術室を兼務しています。初めの頃は両立することが大変で、精神的にも肉体的にも苦しいと感じる事が多々ありました。しかし、家族や病院のスタッフの支えによりなんとか乗り越えることができ、現在は苦に感じる事もほとんどなく、楽しく仕事が出来ています。

私は一人っ子なのですが、従妹の中では一番上です。従妹達は私を見て真似したりしていたのでお手本にならなければいけない立場にあります。女の子が3人いるのですが、私が看護師を目指す3人のうち2人が看護師になりました。

よく、家族や友人に「あんたが看護師になるとは思わなかった。信じられない！」と言われるのですが、今の私は看護師以外の仕事は考えられませんし、看護師以外の仕事をしている自分が想像できません。それが私自身不思議です。

看護師は命と向き合う仕事ですので大変な事も多いですが、これからも頑張りたいと思います。気軽に質問や用件をお聞かせ下さい！



当院では、入院中の患者様の入院生活の充実を目的とし、節分、七夕、クリスマス会と季節に応じたレクリエーションを実施しております。しかし、夏を題材としたレクリエーションがありませんでした。そこで本年度より「祭りたちばな」と題しまして、新たなレクリエーションを企画・実施いたしました。

内容は、ボランティアとして五十市中学校ブラスバンド部による演奏、また患者様による踊りなどがありました。その他は、当院のスタッフによるソーラン節と参加スタッフ全員による盆踊りでした。

急遽、このレクリエーションを実施することになり準備も短く、ボランティア受け入れなど初めてのことが多く苦労しました。しかし、実行委員、その他スタッフの協力体制が非常によく、レクリエーションは盛況にまたスムーズに行うことが出来ました。

患者様からの評価はアンケートを実施し、集計いたしました。どんなことが書いてあるのだろうとドキドキしながら集計を行いました。結果は、「できればもう1時間してほしい」「毎週してほしい」など多くの方に高評価をいただきました。

入院中の患者様の笑顔や楽しいな雰囲気がスタッフにも伝わり、こちらも力をもらったように思います。今回のレクリエーションで頂いた活力をいかし、今後も患者様の励みになれるよう勤務に従事したいと思います。

(実行委員 増田)



【祭り！たちばな】(平成18年9月2日(土)開催)

《インフルエンザと風邪の違い》

インフルエンザはインフルエンザウイルスによって引き起こされ、風邪の多くも風邪の原因となるようなウイルスや細菌によって引き起こされます。しかし、その症状の現れ方が、まったく異なります。

インフルエンザの場合、「急に高い熱がでた」、「頭が痛い」、「体の節々が痛い」等の全身症状が最初あらわれます。一方、風邪の場合は、「くしゃみ」、「せき」「鼻づまり」というような呼吸器の症状が現れます。

○インフルエンザの治療

自分の症状がインフルエンザではないかな？と思った時には、できるだけ早めの受診をお勧めします。インフルエンザは発熱から48時間(2日間)以内に治療することが大切です。また、インフルエンザはウイルスと一般細菌と合併した呼吸器の感染が多いため、抗生剤が処方されることもあります。

○インフルエンザの予防法

まずは、うがいと手洗いを徹底しましょう。帰宅して玄関のドアを開ける前に、服をパンパンとたたいて服に付いたウイルスを少しでも落とすのも効果的です。うがいは緑茶で行いましょう。手洗いは石鹸で十分泡をたたせて、30秒以上水で流しましょう。また、外出時にはマスクを着用しましょう。

冬になると乾燥しやすく、ウイルスがのどに付着しやすくなります。乾燥を防ぐために、アメやガムで口の中のうるおいを保ちましょう。また、ビタミンB1やビタミンCを含む食品を取るようにしましょう。



個人情報保護に関する基本方針

当病院は、個人情報を正確かつ安全に取り扱い保護することを社会的責務と考え、以下のことを宣言いたします。

- ・ 当病院は、個人情報保護に関するコンプライアンス・プログラムを策定・運用を規定し、全ての代表者および職員が遵守することにより、個人情報の適切な管理に努めます。
- ・ 当病院は、個人情報保護の重要性について、院内に対する教育啓発活動を実施するほか、個人情報保護の管理・監査者を設置し、適切な管理・監査体制を確立し運用を行い継続いたします。
- ・ 当病院は、個人情報への不正アクセス、個人情報の紛失、破壊、改ざんおよび漏洩などが発生しないように安全対策を実施いたします。
- ・ 当病院は、個人情報の収集・利用・提供については、個人情報に関する個人の権利を尊重し、収集目的・使用範囲の限定を明示し、適切な管理に努めます。
- ・ 当病院は、個人情報に関する法令その他の規則を遵守します。
- ・ 当病院は、以上の活動について、内容を継続的に見直し、改善に努めます。

クリスマス会



☆ メリー・クリスマス☆

クリスマス・イヴは12月24日、クリスマスは12月25日ですが橘病院では一足先に12月16日にクリスマス会が行われました。患者様の1人1人の心に残るプレゼントになればと思いスタッフで出し物を考えました。筋肉体操・ソーラン節・手品・フラダンス等をし、患者様の普段見られない笑顔が見られ、あまり聞かれない笑い声が聞かれました。他に患者様のレクリエーションとして風船割り・ビンゴゲーム等を行いました。部屋を訪室すると「昨日は凄く楽しかったよ～。また見たいな～。」「みんな上手だね～」と笑顔で語られ私達スタッフとしてもとても嬉しい気持ちになりました。

入院する上で辛い事などあると思いますが、今回のクリスマス会が1人1人の心に残るサンタクロース(橘病院全スタッフ)からのプレゼントになれば幸いです。

(記事 村上)



《標語》

10月

☆ 小さな改善 大きな効果 みんなの工夫で 安全職場

11月

☆ もう一度 初心に返って 事故防止

12月

☆ 温もりと 誠意伝わる 接遇を

平成19年1月

☆ 慣れた作業も基本から ルール守って 事故防止

(環境美化係より)

橘病院の理念(私たちがめざすこと)

当院は「医療の質の向上」を追求し、患者様(家族)と職員・スタッフがともに「心ゆたか」になれる病院を目指します。
患者様の1日も早い社会復帰(家庭、就労、就学など)を願い、地域住民から安心され、信頼され、共感を得られる病院づくりを目指します。

研修会

『消防訓練』を実施しました。



平成18年10月26日(木)

今回は夜間での院内火災を想定し、当院の自衛消防隊による活動訓練を行いました。

『医療現場と接遇』について研修会を行いました。



平成18年11月17日(金) 出席者 77名

講師 (株)アステム 内田耕治氏

(職員アンケートより)

- ・反省すべき点があり、自分の振り返りができました。
- ・今までも自分なりに挨拶できていたと思いますが、より一層心を込めたいと思う。
- ・これからの仕事に意欲がわきました。

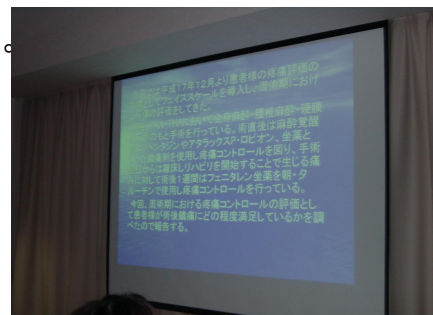
『第4回 院内研究発表会』を行いました。(平成18年10月21日(土))

●各部署で約半年前からそれぞれのテーマに沿って研究したものを発表しました。

各部署のテーマは下記の通りです。

- ① 外来……外来待ち時間における改善策と患者様への配慮
- ② 2階病棟…人工関節術後疼痛管理
- ③ 3階病棟…高齢者の転倒転落の予防に取り組んで
- ④ リハビリ…当院でのTHA・TKA術後患者様の満足度調査
- ⑤ 栄養科……NSTの活動状況
- ⑥ 手術室……クリーンルームの意義～施設環境の清浄度管理～
- ⑦ 薬剤科……入院患者様の持ち込み薬について
- ⑧ 放射線科…当院における被爆量の把握

◎これらの研鑽を通じて更なる看護の質の向上に役立てていきたいと思いました。



☆ 外来・1階公衆電話横・2階病棟と3階病棟の談話室に《ご意見箱》を設置しています。

= 病棟にて =

＊ ＊ 自由に使えるお湯が欲しい(風呂なしの時便利) ＊ ＊

★★ 3階病棟の食堂に給湯器を設置しています。24時間使用できます。(21時消灯)

★★ 2階病棟の浴室は、月曜日から土曜日の10時から16時まで使用できますのでご利用下さい。

★★ 清拭用のお湯が必要な時は、いつでもスタッフに声がけしてください。★★★★

= 退院時アンケートより =

＊ ＊ 栄養指導により体重が、7kg減量いたしました。おかげで体調も良く、成人3大病の予防をして頂き、ありがたく思っております。又、朝のみそ汁は美味しく、楽しみでした。 ＊ ＊

★★ 規則正しい食事がいかに大切か解って頂けたようで、うれしく思います。これからも、食事療法を継続して頂き、健康でお過ごしください 管理栄養士 山下 みさ子 ★★



貴重なご意見ありがとうございました。より質の高い医療サービスが提供できるように改善していきたいと思っておりますので、これからもご意見をどしどしお寄せ下さい。事務次長の上村、看護部長の山元が、外来・病室をラウンドしています。お気軽に声がけて、ご意見をお聞かせ下さい。☆



= 業務改善対策委員会 意見箱係 =



『人工股関節置換術を受けて』

古川信子



お便りありがとうございました。おかげ様で杖はまだ離せませんが、毎日1.5キロ～2キロ位歩いています。

1年6ヶ月位 足が痛く針や灸をしたり、温泉に行ったりしていましたが、一向に良くなり、町内の病院に1ヶ月入院していましたが、一向に痛みは取れず悪くなる様に感じました。先生の勧めで橘病院を紹介されて診てもらいました。先生から90歳になってから手術をされて元気に歩いておられるとの話を聞いて手術を決めました。

手術は、全然痛みもなく終わりました。手術後、先生を始め、看護師さん達のやさしい言葉、やさしい笑顔に励まされ、6ヶ月間お世話になりました。

今は足の痛みもなく元気で毎日を過ごしています。本当にありがとうございました。返事遅くなってしまうました。また、11月に参ります。よろしくお願いします。



『人工股関節置換術を受けて』

吉元 トキ



若い頃からの立ち仕事、重い物を持って38年間商売を致しておりました。歳を取るにつれ、15年頃から足腰が痛くなりました。病気1つしたことのない私でしたが日々に股関節が痛くなり、ある病院に入院しましたが失敗しました。ある時友人と会い、橘病院にいい先生がいらっしゃる聞き、股関節、膝専門に手術をして下さると聞き、是非私も手術をお願い致しました。「末期だよ。」と言われ、私は涙がこぼれました。でも私は挫けず一生懸命頑張りました。手術して1年6ヶ月家事から筋肉トレーニング。おかげで旅行に行けたし、何でも出来るようになり、これも先生を始め看護師の皆様、病院のスタッフの皆様に励ましと援助をいただき本当にありがとうございました。私は思いました、体が悪い時は病院を選ぶのも当然ですが、良いドクターを選ぶ時代だと思いました。私は柏木先生を選びました。私の友人にも膝関節の悪い人が私に手術のことを尋ねます。その時は「柏木先生にお願いしなさい。」と言っています。最後に橘病院の益々の発展とまたご指導をして頂きますようお願い申し上げます。

(私の工夫)

私には、腰痛があります。痛みが強いと足とか関節にきます。歩くと前かがみになり、腰が曲がるようになるのでリュックに重りを入れて、背負って歩くように工夫しました。私で2キロの重りを入れて歩けば腰も曲がることなく楽に歩けます。

第7回 『 アメリカ生活④ 』

今回はアメリカでの仕事、研究について書いてみます。1年間で2ヶ所の病院、研究室で

仕事をしました。はじめの6ヶ月はNY郊外のLyhigh Valley Hospital の整形外科研究室でKeblish先生の指導を受けました。年間1000例ぐらいの手術をこなし、その500例が人工

関節手術をされている先生です。当初、自分の動物実験の内容と関連のあるクリーブランド

の大学病院で共同研究を行う予定でしたが、留学時期が延期となりその間に自分の実験

が終了したため、実験中心でなく手術を中心に勉強できる施設を探し、Keblish先生に許可をいただくことができました。

このころアメリカでは人工関節の手術後翌日には、自分で立ってトイレに行き、1週間で退院という論文が主流を占め、日本では2～3週間の安静、その後徐々に歩き出すという通常のリハビリプランとはかなり差があり、そこがまず興味のある点でした。はたしてアメリカの患者さんは文句も言わずに、平気な顔で手術の翌日歩いているのか？

実際は確かに、翌日から歩いていました。でも相当の痛み止めを使い、痛くて大声で文句

を言っている患者さんも結構いらっしゃいました。しかし、入院から退院まで細かい計画と、看護師、コーディネーターのマニュアルどおりの説明・指示ができあがり、今では日本のどこの病院でも当たり前になっているクリニカルパスに驚きました。毎週何十例もの患者さんが、まるで流れ作業のように、ほとんど同じ枠組みの中で治療が進行し、医師の役

割も効率よく作動していました。多少機械的で温かみの無い人間関係のようですが、ミスなく、事故なくという徹底したリスクマネジメントは、訴訟社会によって築かれた医療の形だと感じることはばかりでした。

日本でもたくさんの先輩、著明な先生の手術を見せていただきましたがKeblish先生を

医師は、年間数百例以上という手術数の差があります。整形外科手術、特に人工関節では手術用機械の進歩の差が明白で、さらにスタッフの手術経験数が手術レベルに貢献していることに驚きました。

救急外傷をみる暇はあまりありませんでしたが、カンファレンスで拳銃に撃たれて砕けた骨のレントゲンを見たり、死亡した方の話は時々耳に入り、それからはできるだけ明るい時間に家に帰るようになりました。そんな中6ヶ月間で論文にするようにと与えられたテーマは、「人工膝関節手術後2年以上経過した患者さんのレントゲンデータの評価」というものでした。カルテ、レントゲンなどのデータのそろった700名のカルテと、4万枚のレントゲン写真の山に囲まれ地味で暗い作業が始まったのでした。

つづく

柏木 輝



・皆さんから何か疑問に思われることやご質問があれば、当院の医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師、放射線技師、事務員がお答えいたしますので文書や口頭、メールでかまいません。お寄せください。

(メールアドレス info@tachibana-hospital.jp)

広報委員

新留ひとみ・森山善子・連城幸枝・中村みゆき・池之上浩紀・今西由紀子・田中美佳
山元加代子・小八重静香・山下みさ子・増田真樹・山口光生・小川達矢・野口勇樹
河野まさみ・園木望水・和田麻衣・井之上 綾・村上真矢子